

平成二十七年年度 卒業式 式辞

一月の終わりに、一晩に一メートルという、この豪雪地域の栃尾においても過去に記憶のないような大雪に見舞われましたが、季節を通して振り返ってみれば、今年は積雪量の少ない、非常に穏やかな冬でありました。立春を過ぎた頃からは三寒四温の日々が続き、少しずつ春の気配が間近に感じられるようになってきています。

本日ここに、新潟県立栃尾高等学校全日制課程、第六十八回卒業証書授与式を挙行するにあたり、ご多用の中、ご臨席いただきましたご来賓の方々、保護者の皆様に、深くお礼申し上げます。

本校を卒業していく生徒の前途を、共に祝福していただけますことは、卒業生はもとより、本校教職員、在校生一同、この上ない喜びであります。

保護者の皆様、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。今日まで育ててこられた中での、様々な出来事を今思い起こされ、感慨も一入のことと拝察いたします。本校の教育活動に対して、これまで数々の温かなご支援をいただきましたこと、誠にありがとうございます。

さて、ただ今、本校全日制課程総合学科、九十二名の生徒の皆さんに、卒業証書を授与いたしました。

皆さんは、入学以来、この三年間、将来の自己実現に向けて、熱心に学術や芸術の習得と探究に励み、また部活動、生徒会活動などに取り組み、多くの知識や技術・技能を身に付けながら、大きく成長してきました。また、学校生活の様々な活動や場面を通じて、心身を鍛えるとともに、生涯の財産となる、かけがえのない友情を仲間と育んできました。私たち教職員は、皆さんのそうした三年間の、輝かしい若きエネルギーに満ちた日々に対して敬意を表するとともに、この栃尾高等学校で皆さんと出会い、ともにこの校舎で過ごすことができたことを、心から嬉しく思っています。

皆さんは、生まれてから今日まで、その時々において多くの人々との関わりによって支えられてきました。晴れて卒業という今日があるのは、皆さん一人一人の努力の結果ではありませんが、その努力の日々の中で、保護者、友人、地域の方々等、多くの人の支え、応援があったことを決して忘れてはなりません。そうしたことに對して、卒業にあたり、今、改めて感謝の気持ちを持ってもらいたいと思えます。

さて、今日、日々進化する情報ネットワークの時代の真っ直中にあって、「知識」や「情報」における大きな変革が起きています。

これまでは、こうした「知」と呼ばれるものは、自らの努力によって、苦勞して獲得すべき貴重なものでした。しかし、今、世界の様々な「知」は、一旦言語化されれば、インターネット上のシステムによって整理・整頓され、共有され、誰でもが、どこでも、ほとんど無償で容易に手に入れることができるようになりました。「知」は、もはや、持っているだけで大きな価値をもたらすものではなくなっています。

昔は、一定以上の「知」を身に付けることで、その分野の専門家、いわゆるプロフェッショナルとして生きていくことが可能でした。しかし、現代においては、その気になれば、その分野の「プロ」とまではいかないにしても、その手前くらいの「知」を、多くの労力なく手に入れることが可能です。したがって、人間にとって、「知」だけでは自らの職業を維持していくことは不可能な時代になっていくのです。「知」だけではありません。「知」に加えて、「技術・技能」といった「技」においても、同じことがもたらされつつあります。これは、言うなれば、昔よりも今の方が、「プロ」であり続けるのが難しい時代になってきているということです。

今世の中に存在する様々な職業や職種は、これから二十年後までに、その約半分が存在しなくなる、ロボット等にとって代わられていき、人間が行うものではなくなる。そんな大胆な予測もあります。このことは、私たちのような今の大人にとっては驚くべきことです。すが、もの心ついた頃から高度なネット社会、技術社会に生きていく皆さんたち、そしてその後の世代の人たちにおいては、当たり前のことになっていくでしょう。

では、そのような時代において、自らの人生を、人間として、人間らしく、職業人として自己実現を果たしながら生きていくためには、どのようなことを心がければよいでしょうか。私は、そうした時代に生きるために大切なことは、一人一人の「社会貢献への意欲と情熱」だと思っています。

これまで皆さんは、社会の中で、様々なサービスを享受してきました。自らを育て導いてくれる人に出会い、整えられた環境の中で学ぶべきものを与えられ、教えられ、そして養われ、そうした中で、自らの適性を見出して自らの能力を伸長させる。そんな、受動的な、言わば与えられる立場としての日々を送ってきたのです。

しかし、これからは違います。卒業する皆さんは、これからは、社会に対して何らかのサービスを、今度は能動的に自分が与えていく立場に変わります。卒業後すぐ就職する人は、その職業・職種において社会に貢献していきます。進学する人も、どのような職業・職種で社会に貢献していくかという点を、常に具体的に頭に描いて学んでいくことになる。そういう点で、これまでとは大きく視

点や立場が変わるのです。

社会は、世の中のすべての人による役割分担、分業で成り立っています。人はたった一人では生きていくことはできません。たとえ直接感じていなくても、生きていくことは、社会の様々な人とつながり、支え合っているということだと思います。そのような中で、この社会がよりよいものになっていくかどうかは、社会を支える一人一人の「知」や「技」に、どれだけ人間らしい「心」が注ぎ込まれているにかかっているのです。

「社会貢献への意欲と情熱」は、人が持つ「知」や「技」にその人の「心」を吹き込みます。吹き込まれた「心」は、「知」や「技」を伴った日々の職業生活を通して、他の人の「心」を揺り動かしていき、揺り動かされた人の「心」は、その人の「意欲と情熱」をかきたてていきます。そうした人と人の「心」の連鎖が、社会を豊かにし、人を幸せにしていくのです。これからの本当の「プロ」というのは、そんな「心」の連鎖をしっかりとつなげていける人のことなのです。

皆さんは、この三年間、本校での様々な学習活動を通して、どのような職業・職種において自らの適性を発揮し、「社会貢献への意欲と情熱」をもって生きていくことができるかを、模索してきました。今、皆さん一人一人の胸には、その答えが刻まれていることとと思います。どうか、今日からは、この伝統ある栃尾高等学校の卒業生であることに誇りを持ち、「社会貢献への意欲と情熱」を忘れずに、「知」と「技」を發揮し、その職業・職種における本当の「プロ」として、自らの道を歩み続けてほしいと思います。皆さん一人一人の自己実現が、この社会全体の繁栄と幸福につながります。

皆さんの卒業を心からお祝いするとともに、これからの皆さんの活躍に大いに期待し、式辞と致します。

平成二十八年三月三日

新潟県立栃尾高等学校長

太田 洋一